



▼鳥見の楽しさ

山野や湖沼、公園などでヤマガラやカワセミなどの鳥に出会った時、皆さんはどうなさいますか？季節や環境によって姿や行動が変わる鳥がいます。鳥を見る楽しさは、姿や形、鳴き声、生態観察などから、学ぶことが沢山あると思います。

今春、潮来市の岩本さんは、自宅庭先の植え込みに、コゲラやメジロなどの昆虫のなかに、頭に黄金の冠をつけた日本で一番小柄で、きれいなキクイタダキが飛来しているのを見つけました。

ここで紹介している写真は、その時

里山に育む生きものたち

26 キクイタダキ

(ウグイス科)

学名 *Regulus regulus*

英名 Goldcrest

写真 / 岩本 昌憲

文 / 山口 萬壽美

岩本さんが収められたものです。

▼主な特徴

大きさは約10cm、日本で最も小さい鳥の一つ。上面はオリーブ褐色、雌雄は同色。頭頂には黄金を取り囲む黒い頭側線が見られ(写真)、雄は内側に朱色の斑があるが、雌にはない。雌は三列風切外縁が白く、それがよく目立ちます。

日本では、留鳥または漂鳥(日本国内を季節によって移動する鳥)として全国的に多く分布しています。しかし、多くの人にその存在が知られていません。多くのキクイタダキは松や杉など

針葉樹林で繁殖します。近年、日本の建築材料は外国産材が多く使われ、日本の建築の為の山林の手入れが疎かになっています。したがってこの鳥との出会いも少なくなつたようです。

▼観察メモ

キクイタダキに初めて出会ったのは、昭和35年の冬季、石崎地区の潤沼湖畔の斜面林で5、6羽を見ました。次に網掛公園の松の木で数羽ずつの個体群を見ました。最近、オオワシが潤沼に渡来する冬季、1月〜2月にかけて親沢の松林でも見えています。

この鳥は木の枝を早く動き回り、写真を撮るのは大変ですが、この鳥をよく知るにはどうしてもしっかりと写真撮ることが必要です。それは、この鳥の頭頂や三列風切外縁などから雌雄の区別をしつかり調査するためです。

鳴き声は、普段は「ツイー、ツイー」と細い声で、さえずりは「チィチィチィチィチィ」と金属的な細い声で鳴きます。

冬季から早春、松や杉林で黄金の冠をつけた可愛いこの鳥に会ってみませんか。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年4月30日現在)

◆総人口 34,087人 (+162) 男 17,095人 (+129) 女 16,992人 (+33) ◆世帯 12,722世帯 (+221)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています